

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
社会調査の基礎 Social Survey Basis		2年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	(社会福祉士国家試験受験資格取得 必修 社会福祉主事任用資格に係る科目)	特になし
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
社会福祉士受験資格指定科目				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
社会福祉士受験資格指定科目				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
大熊信成・小林大輔	福祉棟3F 講義棟1F	授業時に説明する。		授業中に指示します
授業の概要				
社会調査とは社会現象に関するデータを科学的な手続きによって収集・分析し理論化し、実践的目的に役立てる手段である。本講義では社会学理論による推論の特色、社会調査の設計、社会調査の科学的手法、アンケート調査法、調査項目の実例を学ぶ。またExcelを用いて統計データの分析も行う。				
授業の目標				
①社会調査の意義と目的及び方法の概要について理解し、説明できるようにする。 ②統計法の概要、社会調査における倫理や個人情報保護について理解し、説明できるようにする。 ③量的調査の方法及び質的調査の方法について理解し、説明できるようにする。				
授業の方法				
講義と演習で授業をおこなう。フィールド調査のためのアンケート紙作成や、実際に調査をし、集計・分析を行う。				
学習の成果（学習成果）				
①社会調査の基礎知識を踏まえて、社会調査が何故必要なのか、どのように役に立つかを分析し、説明することができる。 ②さまざまな統計法の概要を理解し、どのような調査に適しているかということについて、説明することができる。 ③量的調査及び質的調査の長所と短所について比較検討し、実践することができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス・授業概要説明（大熊・小林）			
第2回目	社会調査とは（大熊）			
第3回目	量的調査の手順と調査技術（大熊）			
第4回目	質的調査の調査技術（大熊）			
第5回目	社会福祉における量的社会調査の実際（小林）			
第6回目	社会福祉における質的社會調査の実際（小林）			

第7回目	社会調査における情報処理技術の活用とレポート執筆の基礎（小林） レポート「量的調査と質的調査について」 ※提出は第8回目の授業日	
第8回目	調査アンケート紙作成①（大熊・小林）	
第9回目	調査アンケート紙作成②（小林・大熊）	
第10回目	フィールド調査の実際①（大熊・小林）－学内にてフィールド調査を行う。	
第11回目	フィールド調査の実際②（小林・大熊）－学内にてフィールド調査を行う。	
第12回目	アンケート集計作業（小林・大熊）	
第13回目	アンケート課題分析（大熊・小林）	
第14回目	調査報告発表①（小林・大熊）	パワーポイントで作成した資料を発表する。
第15回目	調査報告発表②（大熊・小林）	パワーポイントで作成した資料を発表する。授業のまとめ
事前・事後学習	ITや図書館を活用して、授業で不明であった点は必ず次回授業までに調べておくこと。また、科目担当者や担任に質問に行くこと。常に分析をする視点を持つこと。	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	10%	授業への積極的参加を評価する。個人ワークを自主的に行い、明確な課題意識をもって授業に臨むことができる。
レポート	20%	提示するテーマについて自分の言葉で述べる事ができる。最高評価であるSは意欲的に課題に取り組んでおり、着手すべきテーマの趣旨に沿っていて、学習の成果が十分に示されている。
調査報告書	10%	調査内容が授業に沿って作成されており、明確な理論と根拠(エビデンス)に基づいている。
小テスト		
試験	30%	社会福祉士国家試験に準じた正誤方式の試験を実施する。
発表内容（態度含む）	30%	パワーポイントで資料を作成し、発表を行う。聞き取りやすく明確な根拠(エビデンス)に基づき発表を行うことができているかを評価する。最高評価であるSは学習の成果が十分に示されている。
その他		
教科書と参考図書		
『社会調査の基礎』弘文堂・他 授業中に適宜指示し、資料を配布します。		
履修上の留意点・ルール		
アンケート紙作成やフィールド調査は積極的に行い、他の学生の課題発表は積極的に聞くこと。私語、遅刻、早退は厳禁。		